

一身上の都合につき

腹をよじらせる辞表目指して

北北東

その日、谷川利雄は明らかに目の色が変わっていた。「お願いしますけん」、「ダメ」「この辞表は受け取れない」上司の島本田作は声を荒げて却下した。この男との付き合いはもう何年にもなるが、毎回こんな感じで受け流してきた。だって次が面倒なんだから。面倒くさいったらありやしない。利雄の妻からは何があっても却下してくれと頼まれているのだ。挟まれる俺の身にもなってくれよ島本は無理難題を考えていた。長い押し問答の末に……

「よし谷川君 今日分かった。俺が君の辞表を受け取る条件として俺の腹の皮がよじれるくらい笑わせる辞表と認めるなら受け取ってあげてもよかばい」という説得が功を奏して今日のところだけ利雄は納得してくれたようだ。

僕の願いはこの場から自由になりたいだけなのだ。「仕事からも、妻からも子どもからも自由になって、世界に飛び出すんだもん。」55歳にもなって僕という利雄こそ、まるで子どもだった。

この数十年、僕の人生 何をやってきたのだろう。あるテレビをみていたら僕のような人生を送っている人を紹介していた。ADHD（多動性集中力欠陥症）・・・その番組を見ていた職場の同僚も僕のことをすぐに思い浮かべたという。ちょうど夕食時、きつと食卓の餌にされたのだろう。我が家でも娘が私の顔をじつと眺めて、片付けもできないところはこの人にそっくりと一人騒いでいた。無視したものの内心ドキドキだった。きつとばれてしまった。

ばれたといえ、もう一つ、天草の検診の帰り、翌日は水俣病検診があ

るというある町の宿はシロアリが舞っていた。そこでの出来事だ。

勿論たらふくビールも飲んだ。僕は隠していたが、SAS（睡眠時無呼吸症候群）という現代人特有の高級な病に冒されていた。それは、韓国ソウルで同宿した南岡さんにも言われたことがある。「あんな唸声は初めて聴いた。一度医者にみてもらいなせ」と30代頃の僕は言われたことがあるのだ。だが病院嫌いな私は「はい」と受け流すだけだった。

それから20年以上もひたすらに隠していたのだ。今朝おきて、頭痛はするものの、まあ少しは眠れたかと朝起きあがると、みんなの視線が僕に集まっている。その私を見る顔が怖い。「みんなどうしたの？」上野は私の顔を見て、ひどく迷惑そうな顔をして「眠れんかったです。」という。「おつ　もしかして、君SASではないと？」僕が言うのと「違うとです。谷川さんの軒で眠れんかったです」今回は、証人が何人もいるので、逃がしはしないぞという覚悟で上野は強気で攻めてきた。

もう否定は出来ない。急に改まった猫撫で声で「そりゃあ　すまなかつた。この件はなにぶん内密に」と谷川は取り繕うが・・それは叶わなかつた。しばらくしたら、法人の社内報でばらされてしまったのだ。それを浦山画伯のせいだと逆恨みする僕だった。浦山百代（うらやまももよ）は漁師の娘だ。何がどうして谷川と一緒に職場に働いているのかという説明は省くとして、後に偶然のまた偶然で谷川と遠すぎる親類になるのだが、その時の否定ぶりは尋常ではなかつた、絶対誰にも言つて呉れるなどというのだ。「谷川さん、それを言つたら絶交です」と冷たく言い放つた。私も一緒にされたらかなわないわ。

へそ曲がりの交差点

僕は生まれてずっと容貌にも体力にも頭脳にも自信がない。それは、ただただ嘆くのでなく、他人の前で嘆くのである。「やっぱ僕は駄目だった。」とね。周囲はじつと黙っていたらよいのじつと。だがじつとし

ていられない。おかげで僕の存在は迷惑なだけだった。他人の独り言に關してレールを引く人間がだれもいないということだけで、精神の自由を持てる幸せに僕はそのうち気づくことだろう。

ソメチメス・チャンスは一度だけ

僕が学校で内職しているとき、突然大笑いが起こつた。なんだろうと前の席の山田の背中を押して「みんな何で笑っているのかその訳を聞いた。山田は「あんたまた内職しよつたとだろ」と笑うばかりでわざと教えない。自分だけ知らないのも癪にさわる。僕がこの学校にきたのは、受験科目が少なくて学費が安いというだけの理由からだつた。しかしそれ以前に放射線技師が何をするのか皆目見当がつかないまま、「あまり喋らなくてすむ仕事』であること、誰かに確かにそう聞かされたときには僕には何より魅力的な仕事に映つた。

入学して半年ほどの教養科目はほとんど高校の復習みたく面白くもなかつた。そんな時間的にも皆が打ち解けてきた頃の授業の一幕である。表出のソメチメスは英語の授業で教師から指されて立つた滋賀県出身の平川は『sometimes』を含むテキストをソメチメスとローマ字発音をやつてのけた。それでどつと笑いが広まつたのだ。こんな吹きだまりのような教室に不似合いな上流階級出身のような細面顔の教師も眼鏡をズリあげニヤリと笑つたというのがあとで本山から聞いた話だ。「へー　ソメチメス・・そういうえばそう読めるな」とあらためて遅すぎる笑いに加わる僕だつた。

つづく